

ここが聞きたい!!

議員本人の原稿を尊重しています。

一般質問

阿部 君枝 議員



問

目安箱の成果と今後の対応は

答

情報提供を積極的に行う

問

町民が住みよいまちにするには、知りたいことを分かりやすく、親しみやすく知らせることが大事ですが、町長への手紙、メールなどでの問い合わせ件数とその内容今後の対応について取り組みは。

町長

町長就任時に町政の責を担うに当たり、基本的な考えの一つとして、みんなで作るまちづくりを挙げています。

政策の提案制度、目安箱制度の創設は公約であり、職員の接客だけでなく、町民の皆さんから町政に関わる意見やまちづくりのアイデア、政策

提案をいただいています。

また、文化センター等を考える会も、住民参加と協働のまちづくりを進める考えで設置しました。

現在までの目安箱やメールなどの件数は41件で、温水プール開館時間の延長はすでに対応済みです。中には匿名での誹謗、中傷等もあります。

今後目安箱は継続設置するとともに、各支所での移動町長室及び各団体、地域での懇談会を実施することにより地域の広聴に努めます。

再問

町長は、目安箱への投書様式にはこだわらないと言われましたが、

町民が書きにくい様式では意味がないと思います。

変える気はありませんか。また、職員の挨拶や言葉遣いなどは、記名ではなく町民が気軽に提言できるところを考えるべきです。

企画課長

様式が難しく過ぎる、かた過ぎるとの声も聞いていますので、記名等を含め検討します。



◎目安箱設置場所
遠軽町役場本庁舎、げんき21、福祉センター、各総合支所 計6カ所

問

病気の周知と教育現場での対応は

答

道内自治体を参考に
対応する

問

脳脊髄液減少症は、単にむち打ち症と診断されることが多く、極めて低い認知度のため理解されません。外見が健康者と変わらない多くの方は、悩み苦しんでいます。

平成19年には文部科学省から「学校におけるスポーツ外傷等の後遺症への適切な対応について」の通知が出されましたが、教育現場における関係者への対応はしましたか。また、脳脊髄液減少症について、どのように町

民へ周知しますか。

町長

当時の網走教育局からそのような疾患が起こりうるとの報告があり、教育委員会から各学校へ通知し、校長会でも周知しています。

また、脳脊髄液減少症は、交通事故、転倒、スポーツ外傷や出産など、身体に衝撃を受けたことで様々な症状を引き起こすという原因を踏まえ、母子保健事業及び高齢者や一般成人に対する健康教育等で、症状の周知を図ります。

再問

道はホームページで周知しています。町もホームページで周知する考えはありますか。

保健福祉課長

道や実施している道内自治体を参考にしながら、今後検討します。

ここが聞きたい!!

議員本人の原稿を尊重しています。

一般質問

高橋眞千子 議員



問 町内小学校の屋外遊具の一斉点検を実施した結果、ほとんどの学校の遊具が危険と判定されました。

子どもたちは、この1年間、休み時間等に校庭の遊具で遊ぶことができなかったのが実態です。

近年、子どもたちの体力低下が心配されています。屋外の遊具（ブランコ、鉄棒、雲梯）は、子どもたちが自ら遊ぶことにより、体力をつけたり、集団生活において順番を守ったり、譲り合ったりするルールを身に付ける手段として大切な事です。

早急に点検の結果を踏まえ、年次計画を立てた



上で財政担当と話合うべきと考えます。

教育長 平成22年度から町内の公園の遊具点検に合わせ、小学校も点検を実施しました。

点検の結果、多くの遊

問

屋外遊具を早く使用可能に

答

改善へ向けて努力する

具が補修・修繕取替えが必要と診断されました。

この点検の結果を踏まえ、

ますが、授業に支障はなかったのですか。

対策が必要とされた遊具や危険と指摘された遊具については、撤去や修繕が終了するまで一時的に使用禁止の措置をとっています。

教育長

学校に設置し

ている遊具は、広い意味では教材・教具あるいは備品という言葉に置き換えてもいいのかもしれませんが、それが使用できない状況下にあつて、各学校にはそれに変わる工夫をして、何とか急場をしのいでいた状況です。そういう状況を少しでも改善する努力をします。

学校にどのような遊具を設置すべきかという基準はありませんが、遊具の中には、子どもの体力や平衡感覚などの向上が期待されるものや体育授業で使用するものもあり、財政状況を見ながら学校とも協議します。

再問

鉄棒は学校の授業で使っていると思います。

この1年間、小学校で学ぶ子どもたちに大変な不自由をかけたことに対し、申し訳ない思いでいっぱいです。何とか現状を改善する努力をします。

町内小学校屋外遊具の判定結果

判定	判定内容	遊具数	今後の対策
A判定	健全	0	
B判定	部分修繕必要	12	修繕
C判定	やや重要な箇所に異常あり	39	修繕または撤去
D判定	主要な部材、部品に異常あり	59	修繕または撤去

※D判定の59遊具のうち14遊具は設置のふさわしくない危険遊具です。

一方で、遊具に頼らない屋外での遊びを学校の先生や地域の方々の力を借りて、昔遊びなどの手ほどきをいただき、子どもと関わっていただけるようなこともまちづくりの一環であると思いますので、そのような方向での意も注ぎたいと考えています。

ここが聞きたい!!

議員本人の原稿を尊重しています。

一般質問

奥田 稔 議員



問

森林整備計画の作成は大丈夫か

答

適切に対応していく

問

国の森林・林業再生プランがまとまり、市町村段階で具体的に森林整備計画、経営計画を作成することになりましたが、森林整備計画作成は農政林務課で担当すると思います。2名で作成することは不可能ではありませんか。

また、町有林は3500haあり、わずか4名で諸調査、管理、計画作成となれば要員不足だと思います。新規採用を含めた職員の補充が必要ではないでしょうか。

町長 森林・林業再生プランが平成21年12月に公表、平成22年11月には

改革に向けた姿が取りまとめられ、4月に森林法が一部改正、交付され、これにより市町村森林整備計画・経営計画の作成が求められることになりました。

総合支所の担当職員も含め、支障のないようにし計画を作成します。

また、新規採用を含めて職員は全体的なバランスで配置していますので、限られた中でお互い連携し、町有林の管理、林業振興を図ります。

再問 本所の担当課では、年間に2人で10日ぐらいしか山に行っていない



町有林 (向遠軽)

問

民有林の把握はできているか

答

森林組合と連携をしたい

問

民有林等との境界標の調査はされていますか。民有林の境界が不明だと総体的計画が作れないのではないのでしょうか。

農政林務課長

平成21

年度に町有林の境界にポールを立てましたが、民有林の境界標の把握をしていないので、森林組合と連携し進めます。

せん。支所は1人か0.5人の配置できつとした調査、実態把握をした上で計画作成ができますか。

また、いまだ道段階での計画作成が遅れていますが、自治体によっては「作れない」「路網計画なんて作ったことがない」

農政林務課長 町の計画は、道の作成する計画と適合性を図らなければなりませんが、道は計画作成中なのでそれを見ながら作成となります。

3月31日までの作成が義務付けされていますので、本所・支所を含めた応援体制で努力し、作成します。

「土地所有者の理解をどう取るのか」などいろいろ出ています。来年3月末まで作成できるのでしようか。